

会 議 録

- 1 会 議 名 木更津市立公民館運営審議会第3回定例会
- 2 開 催 日 時 令和元年12月19日(金)午後3時～午後5時
- 3 開 催 場 所 木更津市立中央公民館 第7会議室
- 4 出席者氏名 **【公民館運営審議会委員】** 18名
市原 浩 陶山 隆司 村上 淑子 兼近 裕美 北村 和則
西澤 功 青木 健 市川 一成 井上 茂男 関口 由美子
鈴木 正 清水 正夫 秋元 豊 山田 治子 渡利 明
安藤 清康 清水 弘美 山下 紀世美

【公民館長】 15名
石井 一彦 (中央公民館) 佐々木 英之 (東清公民館)
水越 学 (富来田公民館) 星野 隆弘 (清見台公民館)
大河原 敏雄 (岩根公民館) 渡邊 祐二 (畑沢公民館)
山本 卓人 (鎌足公民館) 玉川 剛 (岩根西公民館)
加藤 高明 (中郷公民館) 安田 正幸 (西清川公民館)
桑田 清行 (富岡公民館) 石井 春久 (波岡公民館)
吉田 貞利 (文京公民館) 米澤 雅史 (桜井公民館)
鈴木 修一 (八幡台公民館)

【金田地域交流センター長】 江澤 茂典

【事務局職員】 4名
松本 明子 (中央公民館副館長)
小野 裕太 (中央公民館主事)
萩野 雄大 (中央公民館主事)
宮城 三津子 (中央公民館社会教育指導員)
- 5 議題及び公開又は非公開の別 公開
議案第1号 令和元年度公民館文化祭(まつり)及び文化祭視察研修の実施結果について
議案第2号 木更津市立公民館運営審議会への諮問について
「これからの地域における公民館の役割について」(諮問)

- 報告事項
- (1) 各種選出委員からの活動報告
 - (2) 第71回千葉県公民館研究大会開催中止について
 - (3) 令和元年度君公運審連・君公連合同研修会について
 - (4) 木更津市生涯学習功労者表彰受賞について
 - (5) その他

6 傍聴人の数 0人

7 会議概要 以下のとおり

事務局より、出席者数が2分の1以上に達した（20名の定員に対して18名の出席）ので、本会議が成立したこと、及び、本会議は公開制であることを報告。

令和元年度木更津市立公民館運営審議会第3回定例会を開会する。

<議案第1号 令和元年度公民館文化祭（まつり）及び文化祭視察研修の実施結果について>

青木 健委員長： それでは、これより議事を進めさせていただきます。議案第1号「令和元年度公民館文化祭（まつり）及び視察研修の実施結果について」審議を行います。今年度の各地区文化祭に関して、新たに取り組んだものや、特徴的な内容、その成果と課題等について、各地区公民館長より簡潔に2分間で報告をお願いいたします。

なお、5館ごとに区切りその都度委員より質問、意見を求めます。はじめに、中央、富来田、岩根、鎌足、中郷公民館からお願いします。各公民館の文化祭の実施結果については、事前に配布しております事業報告及び決算報告を、また、資料に視察のアンケート結果も掲載されておりますので、あわせてご覧ください。

石井 一彦中央公民館長： 「中央公民館まつり」は、「広がる つながる 地域とともに」をテーマに、11月2日（土）、3日（日）に開催しました。約2,900人の方に参加していただきました。また、敬老のつどいも同日開催され、多くの高齢者の方に参加していただき賑わいました。ポッチャやブラインドサッカーの体験コーナーを設け、来る2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、市民が体験を通して関心を深める良い機会となりました。また、会場を6階スペースにまとめて実施したことにより賑わいを増しました。新たに、お楽しみ抽選会や地域交流ポッチャ大会（中央公民館長杯）などの催しを行い、地域住民の交流が深まりました。また、木更津第一中学校の生徒による二日間で延べ42人のボランティア参加があるなど、地域の教育機関と連携し、行事を通して世代を越えた交流ができ、また、若い世代の参加は全体の雰囲気も明るくなり盛り上がりました。様々な世代・様々な団体が交流しあうことで、公民館利用者はもとより、地域のつながりを深めるための一助とな

り、実りのある中央公民館まつりとなりました。

水越 学富来田公民館長： 富来田地区でございますが、先日の台風15号の被害で、市内各所それぞれ被害はあったかと思えます。特に富来田地区については非常に被害が甚大でございました。停電の期間も非常に長く、台風が過ぎ去った後、富来田地区の文化祭については、まちづくり協議会、区長会と、文化祭実行委員会が連動しながら地域の行事を開催しているということで、それぞれの長と話し合いを行いました。その結果、年内中の富来田地区の行事、一番直近で言いますと、コスモスフェスティバルなどもすべて中止となりました。やはり今はそういう状況ではないのではないかという話になりまして、富来田地区につきましては中止となりました。その代わり、来年度はオリンピックイヤーということで、盛大にやったらどうかというような話も出ています。また、富岡公民館の文化祭についても、富来田地区ということで、地域全体で話をした結果、中止となっておりますので、ご了承願いたいと思います。

大河原 敏雄岩根公民館長： 岩根東地区の文化祭は、10月25日（金）から27日（日）までの3日間にわたり開催されました。展示部門では各サークルの活動状況や作品を発表しました。25日は折からの大雨で避難指示も出され、開催が危ぶまれましたが、当初の予定よりも早めに閉館する対応をしました。昨年にも増して、サークル以外の個人作品の展示がバラエティーに富み、また、地域住民の方の素晴らしい作品も出品され、狭い館内も賑わっていました。敬老会と合同で開催する発表部門は好天にも恵まれ、3日間で延べ1,500人を超える参加がありました。

山本 卓人鎌足公民館長： 鎌足地区文化祭は11月2日（土）に展示、3（日）には芸能発表、模擬店が行われ、約1,900人の来場者を得て行われました。鎌足地区では、例年、芸能発表や模擬店は屋外ステージを中心に開催されますが、本年度は、午後から雨に降られてしまいました。しかし、雨天時の対応を事前に打ち合わせておいたため、共催している敬老会の皆さんとスムーズにテントを移動するなど、柔軟な対応をすることができました。最後に行われる恒例の「餅まき」も盛大に行うことができました。

本年度は相次ぐ台風や豪雨によって、鎌足地区でも多くの方が被災されました。10月10日の文化祭の準備会議である第2回実行委員会では、文化祭の打合せとともに、迫る台風19号への体制も話し合うなど、まちづくり協議会を中心とした災害対応の経験が、文化祭運営にも生かされていたと感じています。地区文化祭に、華やかな新しい催しを入れて行くことは難しい時代になってきましたが、「いつものように文化祭が開催できる」という背景には様々な努力が必要で、当たり前の日常が維持できることは地域力の現れであることを実感いたしました。

加藤 高明中郷公民館長： 台風被害から約3ヶ月経ち、地域住民や公民館を利用する方々の気持ちが立ち直

り元気を取り戻しつつある中、延期になっていた地区文化祭を11月30日（土）中郷小学校を会場に実施いたしました。未だ被害も完全復旧には至らない状況であり展示部門のみで開催しました。当日は、長い歴史を持つ「太巻き寿司サークル」が市から依頼された「きさポン」や新たに挑戦した「木更津船」の絵柄を取り入れた太巻き寿司実物の展示を始め、「文化財保存会」「写真同好会」「エコクラフト」「絵手紙」などの各サークルの作品や小学校の児童、2つの保育園児による作品の展示を行いました。また、今回は、コミュニティカフェも行き、作品の鑑賞と参加者同士の交流を行うことができました。さらに午後からは、6月に立ち上がった「中郷地区まちづくり協議会」主催の「ふれあいコンサート」と同時開催を行い、会場満員の地域住民が文化芸術に親しみながら深い交流をすることができたと考えています。

青木 健委員長： ただいまの館長の説明に対して、ご質問やご意見や気づいたことについて、挙手のうえ、氏名を述べてから発言をお願いいたします。

青木 健委員長： 質問等ないようですので、続いて富岡、文京、八幡台、東清、清見台公民館お願いいたします。

桑田 清行富岡公民館： 「富岡地区文化祭」につきましては、10月1日（火）に役員会を開催し、その中で中止を決定しました。地域からも今年は仕方がないという意見が多かったです。

吉田 貞利文京公民館長： 「第18回文京公民館まつり」は、10月26日（土）、27日（日）の2日間文京公民館と木更津第二小学校を会場に開催しました。今年のテーマは「和」でした。例年、漢字一文字のテーマで、これまでは実行委員会でテーマを決定していましたが、今年は事前に利用サークルにアンケートを実施し、その中から実行委員会で決定しました。文京公民館（木更津第二中学区）は小学校、中学校、高校が8校ありますが、今年はこれらの学校すべてに、発表かイベントで何らかの形で参加をしていただきました。残念ながら、開会セレモニーで予定していた紅陵高校の書道パフォーマンスは、前日の大雨の影響で今年も中止になりました。当日は好天に恵まれ約1,700名の方が来場されました。

課題としてはサークルの構成人数の減少や高齢化が進んでいることで、積極的に協力してくれる団体とそうでない団体の差が大きくなってきています。それにともない模擬店や駐車場係などの協力団体の調整も難しくなってきています。

鈴木 修二八幡台公民館長： 「みんなで創ろう、文化と人の輪」のテーマのもと、11月2日（土）、3日（日）に展示発表、4日（月）に芸能発表の3日間で実施しました。2年ぶりの通常の実

施ということもあり、多くの方にお越しいただき盛大に行うことができました。しかしながら、台風の影響から、地元小学校の授業参観が2日に延期となり、急遽、児童の参加ができなくなったり、イベントや発表の日程変更が必要となったりということもありましたが、参加者の協力の下、実行委員会を中心とした主体的な運営がなされました。参加団体は、ここ数年減少傾向にありますが、その分、各サークル・団体が展示物を増やしたり、見学者に作品の投票をお願いしたりなど工夫して行われています。また、新しい取り組みとして、まちづくり協議会による防災コーナーの展示・実演が行われました。今回の台風被害の状況や災害ごみの撤去・ブルーシート張りはりなど、まちづくり協議会の活動の様子の掲示、身近なもので作れる簡易コンロを使った炊き出しの実演など、多くの方が防災を考える機会となりました。

2つ目は、9月から立ち上げた「ひばりカフェ」の実施です。まだ知名度が低いため、地域の皆さんに広く知ってもらおうと、ボランティアさんの協力をいただき臨時で実施しました。多くの方に利用いただき「ひばりカフェ」の取り組みを知ってもらおう機会となりました。

今後も少子高齢化など社会環境は変化していくと思いますが、地域の人づくり・地域づくりの場として文化祭を生かしていきたいと思います。

佐々木 英之東清公民館長： 第38回東清川地区文化祭についてご報告させていただきます。今年度の地区文化祭は、10月26日（土）～27日（日）をメインに東清公民館、東清小学校を会場に開催されました。他の地区と同様に、記録的な台風や大雨の影響で文化祭の開催そのものが危ぶまれたり、東清小学校のバザーが延期となったことで、文化祭と合同での開催が急遽決まるなどありましたが、当日は晴天に恵まれ多くの人で賑わいました。同様に、笹子地区の祭礼が中止となったことで、笹子の神楽・太鼓も文化祭に参加し、青年部と子どもたちによって元気に披露され、また、菅生太鼓保存会による菅生太鼓も昨年に引き続き出演し、東清川地区の二つの太鼓が初めて文化祭で競演しました。そして、公民館では作品展示や模擬店、東清小学校体育館では芸能発表会や恒例のお楽しみ抽選会が開催されました。抽選会の「地域のきずな賞」については、台風の影響で農産物等の出品が心配されましたが、昨年並みの約60団体から約100点の出品がありました。そして、文化祭を通じて、公民館利用サークルや地域で活動する各種団体・個人の日頃の文化活動の発表と交流、そして、地域住民のつながり、心と心のふれあいの場となり、今年度、公募により新たに決まったテーマ「東清文化 みんなで育む 地域の絆」にふさわしい文化祭となりました。

なお、文化祭のイベントとして、翌週の11月3日（日）、東清小学校体育館において、地域の青少年関係団体と清川中学校の生徒の協力により、小学生が8つのゲームにチャレンジする「こどもチャレンジ大会」が。そして翌4日（月）には、清

川中学校体育館において、5つの卓球サークルの方々が中心になり、「卓球フェスティバル」が開催されました。

星野 隆弘清見台公民館長： 第36回清見台地区文化祭は、他の地域と同様に大雨により、公民館に自主避難所が開設され、夜間まで避難者の受け入れを行いました。それと平行して文化祭の準備をするということで、経験のない状況でしたが翌日は天気も回復し10月26日、27日に予定通り開催することができました。

今回の主な特色・成果ということですが、地域の防災について公民館で取り組んでいます。赤十字奉仕団清見台分団による防災コーナーを設置したり、北部地域包括支援センターに地域の福祉の活動状況について展示をしていただきました。併せて一日出張カフェということで、公民館のロビーを活用して相談コーナーを設けたり、防災福祉の情報交換できる場を設けて多くの方々にご利用いただくことができました。また、木更津総合高校にお願いをして書道部に作品展示、発表部門にて書道パフォーマンスを行っていただきました。木更津総合高校の出演は今回で3回目になりますが、毎年出演内容を変えていただきながら参加していただいております。

初日に行われましたブロック子ども会主催の「房総かるた大会」では、小学生の時に参加していた太田中学校の生徒が審判として参加していただくなど、19名の生徒さんが2日間にわたりボランティアとして参加していただきました。スマイルフェスタ2019、これについても太田中学校の生徒会を中心に内容・方法を見直しすることで、昨年を上回るたくさんの親子の参加があり大好評でした。

その他として、これまで2日間の開催のうち日曜のみであった模擬店を、一部土曜日にも出店していただくことで、より多くの集客を図ることができたと考えています。天気にも恵まれたこともありましたが、公運審の皆さんに視察に来ていただいた2日目は、公民館、附属体育館、駐車場と全ての会場が多くの人で賑わい、大変盛況に開催することができました。

清見台地区文化祭の主体は、各サークル、地域の諸団体ですが、年々会員数が減少、高齢化が進むなかで地域の文化祭としての意義を高めていくために、各町内会などの地域の団体で構成される地域部会に運営への様々な協力をしていただくことに力を入れて取り組んでいるところでございます。

青木 健委員長： ただいまの館長の説明に対して、ご質問やご意見や気づいたことについて、挙手のうえ、氏名を述べてから発言をお願いいたします。

青木 健委員長： では続いて畑沢、岩根西、西清川、波岡、桜井公民館お願いします。

渡邊 祐二畑沢公民館長： 今年度テーマを地区の小学生から募集し、選考で選ばれた「令和発 未来へ繋ぐ文化の光」のもと地区文化祭を開催しました。「第36回畑沢公民館地区文化祭」

は、10月26日(土)、27日(日)をメインに、多くの地域住民が楽しく集い、ふれあい、交流を深める文化祭とすることができました。特に、27日の芸能まつりは、同時に、地区社協の「敬老のつどい」として、地域の高齢者が招待され、多くのお年寄りが来場し、大変楽しんでいただくことができました。それだけに、年々駐車場が足りなくなって、路上駐車や近くのコンビニエンスストアの駐車場に長時間停める等の問題解消のため、芸能まつり会場の畑沢中学校体育館裏の「港南台光の丘公園」を駐車場利用として開放し、問題解決に当たりました。しかし、交通安全協会の方が所々立って案内しましたが、駐車場案内人の人数が少なく、有効に増やした駐車場を充分活用してもらえなかったこと等、色々問題点が残りました。その問題点を踏まえ、来年度以降さらに充実した地区文化祭になる様、反省会でも各サークルや自治会役員等とも確認し、さらに今後とも協力体制を強化する所存です。

玉川 剛岩根西公民館長： 第34回岩根西地区文化祭は、大雨や台風19号の直後ということで、前日にも避難指示が出ており、実行委員の皆さんに急遽連絡を取りましたが、皆さんからは「こんな時だから」「文化祭は地域コミュニティに大事」などの熱い思いをいただきましたので、全員一致で開催の運びとなりました。

当日は好天に恵まれ、昨年を大きく上回る1,200人程の皆様をお迎えすることができました。その中では、避難所で「お世話になったから来たよ」というご高齢の方がいたり、そういう意味では地域コミュニティの輪としては、広がっているのではないかと実感いたしました。内容としては昨年から始めたものが、定着してきている印象を受けました。

一点目は、「岩西おしゃべりカフェ」です。主催事業「違いの分かる大人のコーヒー講座」の受講者を中心に来店した香り高いコーヒーは大好評で、すっかり定着し、今年は子どもの参加者も非常に多く、会場である調理室はいつも盛況でした。

二点目は、就学前や低学年のお子さんを中心とした和太鼓サークルと、ヒップホップダンスサークルの2団体による元気いっぱいかわいい演技は、今年も大喝采でした。台風・大雨災害直後の開催となりましたが、実行委員会の皆様から「こんなときだからこそ、地域コミュニティを盛り上げる文化祭が大切だ」とのご意見が多く出され、皆様のご協力で今年の文化祭が実施できましたことに心から感謝しています。

最後になりますが、実行委員の皆さんから出た意見で、毎年公運審の皆さんに視察にきていただいています。毎年岩根西地区は最後ということで、それまで体制を整えてなければいけないということですので、視察の順番を来年は前半に持ってきていただくなど再考していただければ幸いです。

安田 正幸西清川公民館長： 今年度、第30回、西清川地区文化祭は、「伝えていこう文化の祭り、深まるきずな・地域の力」をテーマに、11月2日(土)、3日(日)の二日間の日程で開催さ

れました。

昨年度は、西清川公民館の空調設備改修工事のため、木更津第三中学校で開催された三中学区社会福祉協議会主催の「ふれあい会（敬老会）」との合同開催でした。規模を大幅に縮小しての開催でしたので、今年度は「昨年度の分もがんばりたい」という思いで取り組みました。

本年度は、次の二点について新たに取り組みました。一つ目は、地域の子も達の作品展示です。本館は今までは祇園保育園の作品を展示していましたが、残念ながら祇園保育園は閉園しました。そこで、今年度から新たに西清小学校、祇園小学校、木更津第三中学校の子も達の作品を展示しました。

二つ目は、恒例となっております、手つきの餅つきの充実についてです。毎年、地域の皆様の絶大なるご協力をいただきまして実施しております。本年度は社会福祉協議会主催の「学習支援」で中学生を指導している高校生・大学生にも声をかけ、餅つきへの参加を呼びかけました。このように、地域の未来を背負う子ども達の参加によって文化祭を盛り上げています。

石井 春久波岡公民館長： 10月26日（土）・27日（日）に「第27回波岡公民館まつり」は、展示・イベント・芸能発表・模擬店部門に分かれて開催しました。テーマは「未来に地域の絆深めよう なみおか」です。

各サークル会員の高齢化や会員減少の影響もあり、例年展示部門に参加していたサークルが解散するなどして、空いた展示スペースをどうするか考慮しました。しかし、他のサークルや新たに特別養護老人ホームの参加協力もあり、不安は解消されました。

結果、展示品数や種類は昨年以上のものとなりました。また、例年実施の子ども対象のスタンプラリーでは、賞品や参加賞をお菓子や個人手作りの箸置きや折り紙作品などにしていましたが、それに加え、今年度から地域敬老会からも手作りの折り紙コマをいただきました。文化祭終了後のアンケートでは敬老会の方から、高齢者の方と子どもたちの絆を深める良い機会などの意見をいただきました。また来年も継続して行いたいとお話もいただきました。スタンプラリー終了後に、これらの賞品を受け取る子ども達の瞳が一段と輝いていました。保護者や周囲の大人もそれを微笑ましく見つめていました。

今年度のこれらのうれしい変化は、本館文化祭テーマ「未来に地域の絆深めよう なみおか」につながるものと考えます。

米澤 雅史桜井公民館長： 桜井地区も他地区と同様に、台風等で開催について協議がなされましたが、全会一致で開催することになりました。今年度も「集まろう“桜井祭”へ」をテーマに、桜井町内会連合会を中心とした地域住民、各種団体、利用サークル等が実行委員会

を結成し、文化祭を企画しました。文化祭は10月31日(木)から11月3日(日)までの4日間開催されました。他の地区より開催が一日長いかと思いますが、31日は前夜祭ということでダンスパーティを行いました。桜井公民館の主催事業として、小学生を対象とした茶道体験教室という事業がありますが、その教室に参加した子ども達による子ども呈茶席や、木更津第二小学校の4年生から6年生の実行委員が企画、運営する「こどもまつり」が開催されました。このように子ども達も運営に積極的に参加していることが桜井地区の特徴なのではないかと思っています。また、昨年度から取り組んでいる寄せ書きボードやアンケートにより、参加者からの生の意見が伝わってきており、それを改善につなげていっております。文化祭準備、当日の運営を通して、桜井町内会役員や地域住民、サークル利用者などが連携、協力して事業を進めることができ、つながりがより深まったかと思っております。

青木 健委員長： ただいまの館長の説明に対して、ご質問やご意見や気づいたことについて、挙手のうえ、氏名を述べてから発言をお願いいたします。

山田 治子委員： 畑沢公民館のテーマは、実行委員会で選出したのでしょうか。

渡邊 祐二畑沢公民館長： 公募で60選ほどが上がってきまして、似たものなどを合ささせていただき、最終的に30選ほどになりました。それをサークル、自治会の方に投票していただき選出しました。

渡利 明委員： 敬老会と文化祭を兼ねて実施している地区にお聞きしたいのですが、清見台地区でも70歳以上を対象に敬老会招待事業として行っています。それとは別に、老人福祉センターを会場に77歳以上を対象とした敬老会も行っています。昔は、両方とも70歳以上が対象でしたが、高齢化ということで77歳に引き上げて、文化祭だけは70歳という形で進めています。清見台地区の課題としては、受付にてお弁当を配っていますが、ほとんどの方がお持ち帰りしている状況です。中には、お昼に公民館で食べていかれる方もいます。岩根地区では、お食事会を開催し、皆さんと一緒に食べているということで工夫を凝らしていると思いました。参考にその内容について、もう少しお聞かせください。

大河原 敏雄岩根公民館長： 年によって、まちまちです。例えば、去年は交通安全協会の方がお年寄に対して、劇を交えながら振込み詐欺などを注意喚起したり、歌の会を行ったりしました。今年は、バックミュージックを流して、おしゃべりをしながらお弁当を食べました。

渡利 明委員： ということは、お昼休みにお弁当を配り食べているということですか。

大河原 敏雄岩根公民館長：　そうです。午前中の催し物が終わった時点で配っています。その段階で帰られる方もいらっしゃいますが、今年は6、7割残られていた様子でした。

渡利 明 委員：　ありがとうございます。参考になりました。

清見台では、午前中の部が終わりましたら、サークルの方を中心に花束贈呈を行っています。

山田 治子 委員：　渡利委員も今言われましたが、敬老会と一緒に文化祭を行っている地区は何時間ほど行っているのでしょうか。私の西清川地区では老人センターを使い行っていますが、参加者も増えてきているので色々考えているところです。長い時間パイプイスに座ったり、直に床に座っていると体が疲れたり、冷えてしまうという課題ができてきているので、参考にお聞かせください。

大河原 敏雄岩根公民館長：　午前9時30分から13時までになります。その間はイスに座っていただいております。

石井 一彦中央公民館長：　中央公民館では、一中西部地区社会福祉協議会の敬老のつどいと一緒に開催しております。中央公民館まつりは、9時30分からオープニングセレモニーが始まり、15時頃まで発表部門を行っています。最後にお楽しみ抽選会を行っていますので、午前中にお帰りになられる方もいらっしゃいますが、午後からいらっしゃる方もいます。敬老のつどいでは、地区社会福祉協議会の方が輪投げを行っているので、合間をみて体を動かしています。

星野 隆弘清見台公民館長：　清見台地区では、太田中学校区社会福祉協議会が運営しております。それとは別に敬老会は老人福祉センターが行っておりますので、清見台地区の場合は招待事業として文化祭と一緒に実施しております。受付は発表会場である体育館で行いますが、一日体育館にいるというわけではなく、展示を見たり、外の模擬店を見たりするなど文化祭を楽しんでいただけるように、ご招待をしております。最後まで体育館で発表を見られている方もいらっしゃいますが、体が疲れた、冷えてしまったという方がいたという話は聞いておりません。昼休みには、先ほど渡利委員が言われましたが、花のプレゼントを子どもたちから招待された高齢者の方にお渡ししていますので、最後まで参加していただいております。

水越 学富来田公民館長：　富来田地区につきましては、地区文化祭と敬老会は別々に行っております。

山田 治子 委員：　ありがとうございました。

渡利 明 委員： 各地区の実施報告を聞くと、やはり文化祭を盛り上げるためには、模擬店や抽選会などが必要になってくるかと思います。自治会の盆踊りなどのイベントにしても、人が集まらないということで、抽選会・ビンゴ大会などを行っています。それがコミュニケーションを取る機会にも繋げられればいいかと思います。清見台地区では、そういったイベントを行っていないので今後は行うことも検討すべきだと感じました。

西澤 功 委員： 4点ほどございます。1つ目は、決算報告の部分の収入にサークル協力金とありますが、これはいくらになるのか。2つ目は、公民館運営協力委員とはどういう団体なのか。3つ目は、参加団体協力金とありますが、これには小学校・中学校も含まれるのか。4つ目は、限られた予算の中で文化祭を実施しているかと思いますが、もう少し予算があればこういったことができた等ありましたら教えてください。以上4点お願いいたします。

石井 一彦中央公民館長： 中央公民館まつりのサークル協力金については、中央公民館で活動しているサークルに協力をいただいております、20名以上のサークルは2,000円、それ未満のサークルは1,000円の協力金をいただいております。今年度は72サークルからの協力をいただいております。

また、予算が潤沢にあれば、抽選会などの賞品が買えるかと思います。

佐々木 英之東清公民館長： 東清公民館の公民館運営協力委員につきましては、色々な形がありましたが現在は区長さんが15人、それと現在サークルが30ほどありますが、それを発表関係、展示関係、スポーツ関係などの5つの分野に分けて、その各分野の代表者、加えて交通安全協会の方々など25名ほどで構成しております。5月に総会を開き、公民館事業などについての協議をいただいております。文化祭実行委員会を立ち上げる際には、公民館運営協力委員が母体になり立ち上げられております。

渡利 明 委員： 協力金については、サークル・地区が総会の時などに話し合い、協力をいただいているものであり、あくまでも強制的なものではないです。

青木 健委員長： では続いて、金田地区については、本日金田地域交流センターから江澤所長がご出席いただいております。江澤所長からお願いします。

江澤 茂典金田地域交流センター所長： はじめまして。金田地域交流センターでセンター長をしております江澤と申します。よろしくお願いたします。資料に沿って説明させていただきます。文化祭のテーマとしては「伝えよう金田の文化」ということで、10月27日（日）に開催

しました。主催につきましては、実行委員会と指定管理者三幸株式会社となっております。協力団体につきましては43団体、当日の参加は21名でした。来場者につきましては800名でした。当日までのスケジュールとしては、5月の段階で総会がございましたので、その場でまちづくり協議会をそのままスライドして金田文化祭実行委員会を結成しました。企画書等を各団体等に7月に発送させていただきました。当初9月初旬に第1回実行委員会を開催予定でしたが、台風の影響で中止。その後も実行委員会をほとんど行えず、結果的には主催である三幸株式会社と実行委員長とで話し合いを進めながら、各団体については私が連絡をし、調整・準備を行い開催いたしました。今年度については、三幸株式会社が主導で開催をしてしまったので、来年度は実行委員会、市民、利用者の方と共に開催していきたいと考えております。来場者につきましては若い方には多く参加していただきました。また、4月から金田地域交流センターは開館となりましたが、若い世代の方に多く利用していただいている一方で、古くからの住民の方々にはまだ根付いていない様子が見受けられていますので、そういった方々にいかに利用していただくか、来ていただくかというのを念頭に置きながら展開していければと考えております。収支については、私どもには市からの補助金等は一切ございません。全て三幸株式会社の持ち出しで開催させていただき、収入はございませんでした。73,625円のマイナスでした。発表団体や模擬店を開催していただいた団体につきましては、収益金を活動資金に換えていただくというお約束の下協力をいただいております。したがって、保健所への書類の提出、検便等についても団体自身をお願いしております。以上になります。

青木 健委員長： ただいまの金田地域交流センターの説明について、ご質問やご意見や気づいたことについて、挙手のうえ、氏名を述べてから発言をお願いいたします。

水越 学富来田公民館長： 確認になりますが、来年度の課題ということで、金田住民の巻き込み方を再検討していくとありましたが、金田地域交流センター内の市民課出張所に社会教育主事の職員がいます。その職員への相談や、参加等はあったのでしょうか。というのは、昨年私は金田公民館にいたので、その際に今後の文化祭については、指定管理者である三幸株式会社が行い、出張所の専門職の職員については実行委員会に入り積極的に動いていこうということになっていたと思うので、その辺り働きかけがあったのかどうかお聞かせください。

江澤 茂典金田地域交流センター長： 出張所の職員の方には、積極的に協力していただきましたし、色々とアドバイスもいただきました。やはり、私どもにとっても初めてのことでしたので、団体との繋がりも全くない状態からの施設の運営・管理ということもあり、それを補う意味でも協力をいただいております。私どもにとってもありがたい存在となっております。

す。

北村 和則委員： 今回文化祭を運営にするにあたり、収益がなかったということで、三幸株式会社さんが全面的に負担され、結果的に赤字だったということですが、来年度以降も、同じような体制で実施していくのでしょうか。

江澤 茂典金田地域交流センター長： 初めての開催ということで、今回は会社の方で負担し開催しましたが、来年度以降については各団体にご相談させていただきながら実施に向けて動いていきたいと思っております。ただ、会社としては、今回と同じ体制で実施したいと思っております。いずれにしても、会社や各団体の皆さんと協議し運営をしていきたいと思っております。お金を稼ぐことについては、自立していただきたい団体も多々ありますが、その方たちが施設を利用する際には使用料を支払わなければいけない。それを私どもといたしましては、文化祭で発表や販売をしていただき、その成果分を収入として活動資金に充てていただきたいと思っております。これもまた、一つの循環ではないかと思っており、その一助になればと会社としては考えています。

青木 健委員長： 他にないようでしたら、議案第1号については承認されたものといたします。

当日は、各地域の特色や取り組みなどを地域の方々に話を伺いながら予定どおり拝見することができました。公民館の地区文化祭運営が地域の方々の交流と文化の継承につながり、地域づくりの一助となっていることが実感できたと思います。

今後も、それぞれの地域で、実りのある取り組みが展開されることを期待しております。よろしく申し上げます。

<議案第2号 木更津市立公民館運営審議会への諮問について

「これからの地域における公民館の役割について」(諮問)>

青木 健委員長： 次に、議案第2号木更津市立公民館運営審議会への諮問について「これからの地域における公民館の役割について」、石井中央公民館長より説明をお願いいたします。

石井 一彦中央公民館長： 社会教育法第29条第2項の規定に従いまして、このたび木更津市立公民館運営審議会に対し、「これからの地域における公民館の役割について」の諮問をさせていただきます。

(石井館長より自席にて諮問文を読み上げ、青木委員長へ諮問文を手渡す。)

1. 諮問事項 これからの地域における公民館の役割について

2. 諮問理由 木更津市の公民館は、長年にわたり市民の生涯学習、地域の社会教育の中核として、原則、一中学校区を対象に、地域の実状に応じた多様な学習機会を提供し、住民の生きがいがづくりや交流、文化の向上、地域コミュニティの形成に

大きな役割を果たしてきました。

しかしながら、今日の地域では、少子高齢化の進展、自治会加入率の低下、若者の地域離れや地域活動を担う団体・組織の後継者不足、新旧住民の交流機会の減少など、地域コミュニティを維持していくための大きな課題に直面しています。一方、これまで地域との繋がりを大切にしてきた公民館も、利用者の高齢化やサークル会員数の減少、日常的な関わりが薄い青年層や働き盛り世代への取組など、多くの課題を抱えています。

こうした中、平成28年度には、「木更津市公共施設再配置計画」が策定され、今後の公民館のあり方が示されるとともに、「使用料・手数料等の見直しに関する基本方針」に伴い、平成30年度からは、公民館使用料が原則有料となりました。また、平成31年4月には、金田公民館を金田地域交流センターに機能移転するなど、本市の公民館を巡る状況は、近年大きく変化してきています。

この間、公民館では、平成28年3月に出された木更津市立公民館運営審議会による答申「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について」を尊重し、地域課題の解決と地域自治の充実に向けた取組の推進に努めてきました。住民の生涯にわたる学習ときずなづくり、コミュニティづくりなどを支える身近な地域の拠点として、公民館の重要性は、ますます増してくると考えます。本市の公民館が、この先も地域を基盤とした活動を展開していくためには、こうした諸々の課題や現状を踏まえた上で、これからの公民館像について、慎重に検討する必要がありますことから、貴公民館運営審議会のご意見を戴きたく、諮問いたします。

3. 検討にあたっての視点

- (1) 今日の地域が抱える課題と公民館の現状
- (2) 住民の学習とコミュニティづくりの拠点としての公民館の役割

青木 健委員長： (石井館長より諮問文を受け取る)

ただいま公民館長より、「これからの地域における公民館の役割について」の諮問をいただきました。諮問理由等について説明がありましたが、補足等がありましたらお願いいたします。

星野 隆弘清見台公民館長： 今回の諮問事項、「これからの地域における公民館の役割について」を検討していただくため、2つの視点（柱）を掲げさせていただきました。

この視点に沿って、具体的な検討をお願いいたします。

補足の説明をさせていただきます。まず(1)今日の地域が抱える課題と公民館の現状について、という視点でございしますが、理由にも書かれておりますように、地域の現状と課題それから公民館が抱える様々な課題に対して、今後どのように公民館として対応していくべきか、そして何を必要とされるのか、検討していくための

視点であります。地域によって差があり異なりますけれども、今後もさらに進むことが予想される少子高齢化だとか人口の減少、そして町内会の加入率の低下、様々な団体や組織の後継者不足、身近な地域のご近所同士の間関係の希薄化などは、多くの地域に共通する課題となっています。こうした状況・課題に対して、公民館がこれから取り組んでいくのか、向き合っていくのかということでございます。一方で公民館においては、サークル会員数は年々減少したり、あるいは文化祭などでも課題としてよく挙げられますが、高齢化が進むとともに今後青年層、あるいは共働きの親世代、働き盛りの世代、30代、40代、50代、そうした世代の公民館利用が少なく、また世代を対象とした取り組みがなかなか困難な状況にあると考えています。こうした世代に対して公民館の魅力を伝え、どのように公民館に引き込んでいくのか。公民館活動が今後先細りしていかないように、この先さらに活性化していくためにどうしたら良いかということ、考えていく必要があると思います。

2点目について、住民の学習とコミュニティづくりの拠点としての公民館の役割という視点です。現在公民館で行われている様々な学習、例えば講座であったり教室であったり、住民の生涯にわたる学習とコミュニティづくりを公民館では行っておりますが、そうした学習を基盤とした取り組みを中心に、地域課題の解決や、これからの地域づくり・コミュニティづくりにそれらをどう生かしていくべきか、というのが大事だと考えております。例えば、現在公民館が地域に果たしている機能の一例として、災害時の避難所になることはもちろんですが、地域住民に対する防災教育、あるいは地域の防災力の向上など、地域の防災拠点としての機能はますます重要になってくると考えています。それから、地域の高齢化に伴って増えている一人暮らしの高齢者、あるいは後期高齢者の世代が安心して地域の中で暮らしていけるようにするために、気軽に公民館で相談をしたり、自由に交流して、生きがいづくりを含めた交流の機会や場づくりを担うという機能も、公民館にはますます求められてくるものと考えます。あくまで一例ですが、公民館が持つこうした機能は今後地域の中でますます重要になってくると考えられますので、子どもから高齢者まで各世代にわたる公民館の学習を、コミュニティづくりに積極的につなげていくことがこれからの公民館には求められてくると考えています。現在地区住民会議、地区文化祭、それから近年では公民館が積極的に事務局としてまちづくり協議会など、原則中学校区を対象に活動をこれまでも展開してきましたし、現在も行っております。近年では学区の再編に伴って、中学校区域が徐々に変化してきたり、また平成28年度には将来に向けた公共施設の再配置計画も示されてくるなかで、公民館自体、それから公民館と地域の関係もこれからは変わっていくことが求められています。こうした諸々のことを踏まえながら、これからの地域における公民館の役割、地域配置のあり方も視野に入れたこれからの公民館像について、公運審としての率直な意見をお伺いできればと思います。

青木 健委員長： ただいまの説明に対してご質問等のある方はお願いいたします。

質疑応答

西澤 功 委員： 富来田公民館の西澤でございます。平成28年の3月に出された答申について、私もよくわかっていないところではありますが、この答申で今までやってきたことについて、何か不足があるとか、変化が極端にあるとか、その答申を尊重し、地域課題に対して一生懸命やったことに対して、何か不足があるから（新たな答申を出す）というわけではないですよ。我々は答申を受ければ審議するわけですが、28年のものと同じような結論にはならないと思いますが、似たようなことがあるのならば、意味が半減すると思います。なので、平成28年の答申でこの点が変わったなどあれば伺いたいと思います。

青木 健 委員長： 石井館長、お願いします。

石井一彦中央公民館長： 平成28年度の答申をいただきまして、また公民館全体でどういった事業を展開していくか協議をいたしました。事業の主なものといたしましては、地域課題を解決するための推進事業、「地域づくり推進事業」を各館で事業を展開することとし、現在も継続しております。しかしながら、この間、市においても、公共施設再配置計画第1期実行プランが出されるなど公民館を取り巻く状況は大きな変化があり、今後の公民館のあり方を検討していく必要があると考え諮問いたしました。

青木 健 委員長： 西澤委員、よろしいでしょうか。

西澤 功 委員： ありがとうございます。

石井一彦中央公民館長： 委員長。今年度から委員になられた皆様には答申が渡っておりませんので、配布するような形をとりたいと思います。それに対して公民館で新たな事業を起こしたことについても1ペーパーほどでまとめたものを提示していきたいと思っております。

西澤 功 委員： （答申については）いただいております。

青木 健 委員長： ありがとうございます。清水委員。

清水 正夫委員： 文京公民館から来ました清水といいます。ただいまの諮問事項について、一番下の検討にあたっての視点という欄の、(1)今日の地域が抱える課題と公民館の現状、というのは、理解できます。色々と問題点は山積していると思います。次の(2)な

のですが、住民の学習とコミュニティづくりの拠点としての公民館の役割ということになっておりますが、上記の諮問理由を見ますと、平成 28 年度に木更津市の公共施設再配置計画というのが謳っております。将来的には現在の 15 の公民館が 8 つになる計画があると思います。そうであるなら(2)の公民館の役割というのは現状の公民館の役割ではなくて、将来的に再編成された時の公民館の役割ということによってよろしいでしょうか。

青木 健委員長： 石井館長よろしいでしょうか。

石井一彦中央公民館長： 市は、30年後の遠い先の公共施設の再配置計画というのを謳っておりますので、それにむけて市は考えてまいります。この2年間、前年度の委員の皆様には、これからの公民館のあり方を協議してもらってございましたけれども、あくまでも市が考える計画を基に、今ある公民館がどのような地域配置で今後いくことが大事なのか、先ほど申し上げた防災の拠点、また高齢者を地域で支えるための拠点、と色々なことが考えられますけれども、地域の中に公民館がどのようにあるべきかということを検討いただきたいと考えます。

清水 正夫委員： よろしいですか。それであれば(2)については、現在の15の公民館の現状について、協議すると考えてもよろしいでしょうか。

石井一彦中央公民館長： 現在の15の公民館の現状と課題を基に、今後、公民館が地域の中でどのような役割を果たしていくのか、地域をさらに豊かにするため公民館は何ができるのかなど、協議いただきたく、お願いいたします。

清水 正夫委員： わかりました。

青木 健委員長： 他に何かございますか。はい、山下委員。

山下 紀世美委員： 今後、公民館の運営の仕方がやはり変わってくると思います。というのは、高齢化で公民館まで歩いて行けなかったり、交通的なものも関わってくると思います。ですから事業をどうするというよりは、おしゃべりサロンとか認知症のオレンジカフェのような、地域の特性によって違ってくると思います。若い人は勤めに行ったり、私自身は子育てをしていた時も、公民館との関わりは少ないと思います。そういう意味では、小中学生・高校生を巻き込むのであれば、ボランティアという形で巻き込むことも必要かと思っております。ですが、私は統廃合については反対です。今回の台風がありました時に、公民館はなくてはならないものだと思います。しかし今回、金田地域交流センターは委託事業になっていると考えてよろしいでしょうか。

これから予算的な問題で、公民館も地域交流センターのような委託事業になることも考えられなくはないですよ。今過渡期にきているので、しっかりと協議して考えたほうが良いと思います。30事業と申しましても大変だと思います。事業計画は事業計画で大切だと思いますが、地域の人が公民館にどれだけ通っているかという割合はわかりませんが、おそらく一部だと思います。そういう意味では、コミュニティを大切にするのであれば、誰もが足繁く通いやすいような場所にするということが大切だと思います。以上です。

青木 健委員長： ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。

青木 健委員長： 他にないようでしたら、諮問事項の検討方法についてご意見のある方はお願いいたします。

今期の公運審で諮問を検討することは、はじめてですが、参考までに、これまでの諮問についてはどのような方法で検討されたのか、事務局から説明していただけますか。

事務局： 過去（最近）行われた諮問答申について説明

過去の諮問については、検討委員会を設置し、定例会での審議と並行して、数回の委員会（臨時会議）を開催して答申に向けた日程や答申案の具体的な審議を行っていただいております。

青木 健委員長： 事務局より過去の諮問の検討方法について説明がありました。何かご意見等がありますか。特にないようであれば、今回の諮問についても、これまでと同様に検討委員会を設置し、検討していくということによろしいでしょうか。

委員より 異議なし

青木 健委員長： それでは、検討委員会を設置することにいたします。検討委員会の委員を選出したいと思いますが、どなたか立候補してくださる方はいらっしゃいますか。立候補等がないようでしたら、私から提案をさせていただきます。

青木委員長より7名の検討委員を提案

北村 和則委員、鶴岡 俊之委員、山田 治子委員、清水 正夫委員、秋元 豊委員、村上 淑子委員、そして私、青木の7名の委員で構成したいと思います。

また、補助のために、事務局や職員の方にも入っていただきたいと思いますが、

いかがでしょうか。

委員より

異議なし

石井 一彦中央公民館長： 検討委員会につきましては、必要に応じて数名の職員が出席させていただき準備をしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

青木 健委員長： それでは、以上7名の委員と公民館で選出していただく数名の職員に諮問検討委員をお願いすることにいたします。

青木 健委員長： 続きまして、今後の日程等について事務局よりお願いいたします。

事務局 説明

青木 健委員長： それでは諮問検討委員の方は、出席をよろしくお願いいたします。以上で、議案に関する議事を終了いたします。

次に報告事項について事務局よりお願いいたします。

事務局より報告

青木 健委員： 以上ですべての議事が終了いたしました。これをもちまして、木更津市立公民館運営審議会第3回定例会を終了いたします。
ありがとうございました。

以上で全ての議事を終了し、第3回定例会を閉会した。

令和元年12月19日

議事録署名人 木更津市立公民館運営審議会委員長 青木 健